

えひめ子どもチャレンジ支援機構（子チャレ）も5年が経過し6年目を迎えるにあたって少し若返る事となり、新しく堺雅子さん、國分美由紀さん、中西省三さんの3人の副理事長そして事務局長には経験豊かな仙波英徳さん、前理事長の村上伸二さん、前副理事長の宇都宮正男さんにもご協力いただいて、もちろん多くの理解者の支援のもとスタートしました。

6年間の活動は、松山と八幡浜でスタートした「みんなでチャレンジ みんなのチャレンジ（みなチャレ）」活動が中核であったが徐々にその活動は広がりを見せてきました。

「御五神島・無人島体験事業」も、当団体が中核として発足した無人島チャレンジ実行委員会方式に変更し4年目を迎え、資金面を含め一つの形が見えてきました。また高校生のヤングボランティア（ヤンボラ）も暗中模索状態から一つずつ具体的活動が定着してきました、通学合宿も異年齢交流の場として3年を経過しました。さらに国道11号線高架下の松山福音公園整備事業も2年目をむかえ、暗い高架下のイメージを払拭し、明るく遊べる場所造りも、若い発想で着々と進んでいます。

さらに[地域教育実践交流集会]も4年目を迎え、子供にまつわる活動をそれぞれの地域で、それぞれの目的に応じて活動している仲間が、実践を発表する中で学びあい、支えあい、助け合う環境が少しずつ醸成されています。

このように広がってきた当団体の活動ですが、これらをさらに充実し、発展させるためにどのようにすべきかが、いま問われ始めているように思います。そのためにわれわれの活動を、支持し参加してくれるメンバーを増強することも不可欠となってきています。

私たちの活動のなかで、それぞれの活動に参加した子供たちが、自分に仲間がいること、その協力のもとで生きていけること、そして自分も必要とされていることを少しでも感じてもらえれば、これから先、子どもたちの成長の中で困難をたくましく乗り越えてくれるものと信じています。そんな事業の積み重ねをみんなの力で続けてゆきたいと思っています。

終わりに、私たちの活動を理解し支持して下さった皆さんにお礼を申し上げますと共にひき続きのご支援をお願い申し上げます。



さて話は変わります。55、152件 これは2010（平成22）年度に全国の児童相談所で対応した児童虐待の件数です。虐待件数は、この20年間で50倍以上となっており増加の傾向がとまりません。子供たちの駆け込み寺となるシェルター（緊急避難所）を初めて開設した坪井節子さんの話を紹介します。

長引く不況、貧困、希望の見えない社会の中で、大人たちが生きる気力を失い、孤立し、心身の健やかさを保てなくなり、子供たちに関心を払い大切にできる余裕がなくなっていることが児童虐待の背景にあります。さらに虐待をする親自身が愛されず、大切にされずに育っているのです。しかも、今も孤立している。孤立は人間を人間じゃなくしてしまいます。孤立して社会から切り離されてしまった大人が、自分の子どもだけと向き合うところから虐待は始まります。孤立させてしまっているのは、私たちの地域社会なのです。

そして「東日本大震災子ども支援ネットワーク」のスペシャルアドバイザーとして「子どもたちを、ひとりぼっちにしないで」と、メッセージを発信されています。